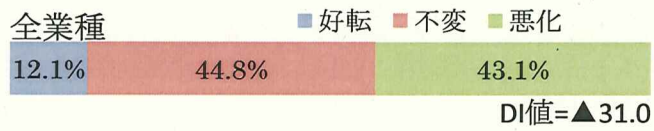




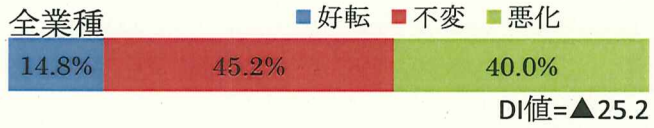
7) ①「自社景況」について

・4月～6月の「自社景況」は、昨年同期と比較して



(業種別)	好転	不変	悪化	DI値
建設業	3.8%	34.6%	61.5%	▲57.7
製造業	12.5%	50.0%	37.5%	▲25.0
卸売業	23.5%	47.1%	29.4%	▲5.9
小売業	8.0%	40.0%	52.0%	▲44.0
サービス業	23.8%	47.6%	28.6%	▲4.8
その他	0.0%	63.6%	36.4%	▲36.4

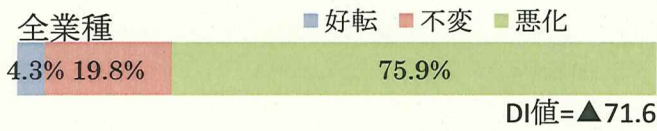
・7月～9月の「自社景況予想」は、昨年同期と比較して



(業種別)	好転	不変	悪化	DI値
建設業	11.5%	30.8%	57.7%	▲46.2
製造業	18.8%	50.0%	31.3%	▲12.5
卸売業	29.4%	41.2%	29.4%	0.0
小売業	8.3%	41.7%	50.0%	▲41.7
サービス業	19.0%	57.1%	23.8%	▲4.8
その他	0.0%	63.6%	36.4%	▲36.4

7) ②「業界景況」について

・4月～6月の「業界景況」は、昨年同期と比較して



(業種別)	好転	不変	悪化	DI値
建設業	0.0%	7.7%	92.3%	▲92.3
製造業	6.3%	25.0%	68.8%	▲62.5
卸売業	11.8%	35.3%	52.9%	▲41.2
小売業	0.0%	12.0%	88.0%	▲88.0
サービス業	9.5%	23.8%	66.7%	▲57.1
その他	0.0%	27.3%	72.7%	▲72.7

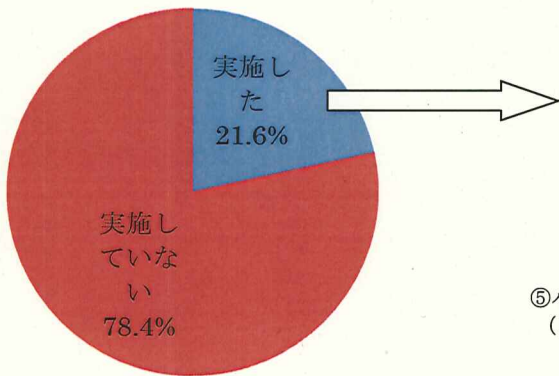
・7月～9月の「業界景況予想」は、昨年同期と比較して



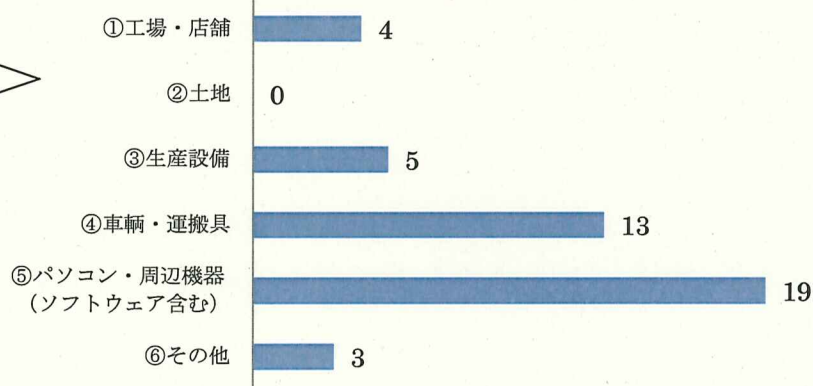
(業種別)	好転	不変	悪化	DI値
建設業	0.0%	19.2%	80.8%	▲80.8
製造業	6.3%	37.5%	56.3%	▲50.0
卸売業	11.8%	35.3%	52.9%	▲41.2
小売業	0.0%	12.5%	87.5%	▲87.5
サービス業	4.8%	28.6%	66.7%	▲61.9
その他	0.0%	27.3%	72.7%	▲72.7

3. 設備投資動向について

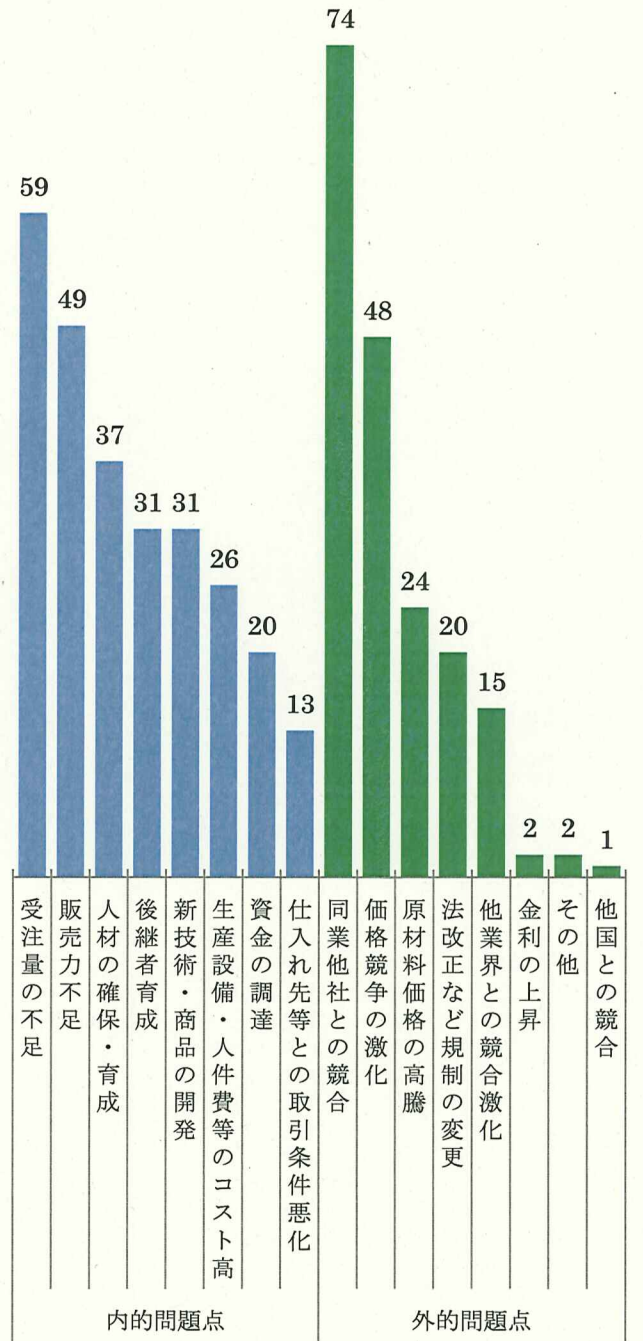
1) 4月～6月の間に設備投資を (実施した/実施していない)



2) 設備投資の内容について



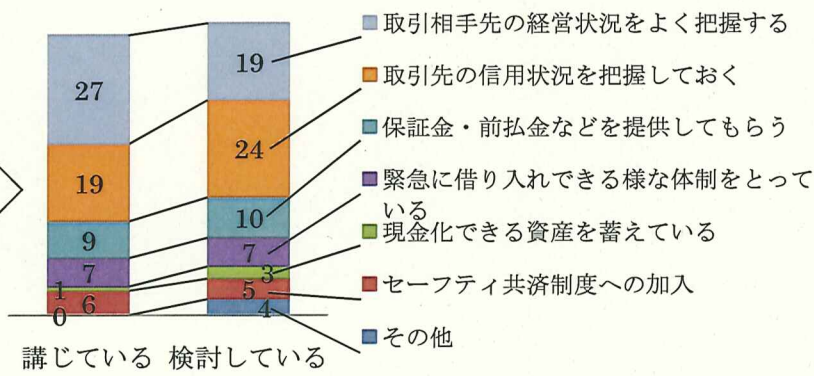
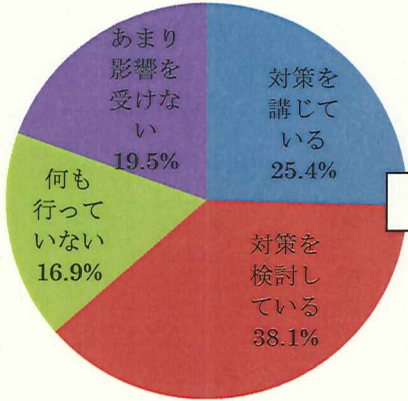
4. 経営上の問題点について



5. 取引先の倒産等のリスク対策について

1) 不測の事態への対策を、

2) 不測の事態への対策の内容



6. キーワード・トピックス・関心事項

【指摘の多かった項目】

- ・デフレ傾向
- ・原油、原材料等の価格上昇
- ・雇用情勢の悪化
- ・官公需要、民間需要の低迷
- ・政局不安定
- ・新興国の動向(中国、インド、ロシア、ブラジル等)
- ・消費の低迷
- ・少子高齢化、人口の減少

【検証】キーワード、トピックス、関心事項より

現在の景況の要因として、「デフレ」(物価の下落傾向)を指摘する回答が多くあった一方で、資源価格の上昇等の「インフレ」(物価の上昇傾向)を指摘する回答も多くありました。国内を見回せば、280円の牛丼、690円のジーンズ、5,000円のスーツ等々「デフレ状態」を象徴しています。一方、輸入に頼らざるを得ない原油や貴金属等の資源価格やポリエステル等の繊維原料の価格等が上昇傾向にあります。即ち、現在の経済状況は、「物価の下落傾向」に加え「原材料仕入価格の上昇」という、「インフレの影響を受けながらのデフレ状態」にあるという極めて厳しい状況下にあることがうかがえます。そして今回の調査結果から、弘前地域の企業も例外無くこの影響を受けていることが裏付けられました。

※原油価格の推移

金融マーケットでは一般的に原油価格というとWTI原油先物の価格を指します。WTI(ウエスト・テキサス・インターメディアート)とは米国で産出される原油の一種で、世界的な指標となっています。(1バレル=約159リットル)



※GDPデフレーター推移(GDPデフレーター=名目GDP ÷ 実質GDP)

推移がプラスならインフレ、マイナスならデフレ傾向にあると見ることができます。

